

釧路市教育委員会 令和4年第17回8月定例会会議録

- 1 日時：令和4年8月31日（水）13時30分から14時50分まで
- 2 会場：釧路フィッシャーマンズワーフMOO 2階 教育委員会室
- 3 出席者  
岡部義孝教育長  
(教育委員)  
山口隆委員、種村俊仁委員、小出美貴子委員  
(事務局)  
齋藤学校教育部長、工藤生涯学習部長、大山教育指導参事、早坂学校教育部次長、  
池田総務課長、小野施設計画主幹、森教育政策主幹、澤口生涯学習部次長、松本博物館長、島スポーツ課長、石川学芸主幹、鈴木動物園長
- 4 議事録署名人 山口委員、小出委員
- 5 傍聴人数 0人
- 6 提出案件

【公開案件】

報告事項

- (1) 釧路市政策アドバイザーの任命について
- (2) 小中学校における読書週間の定着に向けた取組みについて
- (3) 令和4年度釧路市子どもミーティング～Let'sTHINK&ACT～の開催について
- (4) 釧路市奨学金に係るアンケート調査結果について
- (5) エンジン02in釧路開催結果等について
- (6) 第50回釧路湿原マラソンの開催結果について
- (7) 学校の現状について

## 7 会議内容

### 【公開案件】

#### (1) 釧路市政策アドバイザーの任命について

(池田総務課長)

報告事項1、釧路市政策アドバイザーの任命について報告する。

この度、釧路市では8月1日付けで、大阪教育大学客員教授の小出泰久（こいで やすひさ）氏を釧路市政策アドバイザーとして任命した。小出氏は長年、教育業界の情報化に携わっており、現在では日本教育工学協会や公益財団法人学習情報研究センター、一般社団法人日本教育情報化振興会等で理事を務められるなど、幅広い知見と影響力を持っている。DX（デジタル・トランスフォーメーション）による教育改革、ならびに、そのような環境で育った子どもたちが「将来も住み続けたい」と思える日本であるために、日本社会全体のDX化をライフワークとして取り組んでいる。教育委員会においては、こうした小出氏の知見等を活かし、学力向上や学校における働き方改革、不登校支援など、教育分野におけるDXの推進に向けた助言をいただきたいと考えている。

なお、この度の釧路市政策アドバイザーの任命においては、釧路市におけるDXの推進に当たり、小出氏の他に東北芸術工科大学客員教授の陣内裕樹（じんない ひろき）氏についても、7月1日付けで任命をした。

陣内氏については市政全般に関するDXの推進に向け、また、小出氏については特に教育分野のDXに関して助言をいただくことを目的に、釧路市として両氏へ政策アドバイザー就任をお願いし、快く引き受けていただけたため、合わせて報告をする。

◎この報告について、各委員からの発言はなし。

### 【公開案件】 報告事項

#### (2) 小中学校における読書週間の定着に向けた取組みについて

(早坂学校教育部次長)

報告事項2、小中学校における読書習慣の定着に向けた取組について報告する。

子ども達が読書に慣れ親しむことは、これからの長い人生においてプラスに作用するだろうということは、昨年度、読書をテーマに議論を交わした、「釧路市総合教育会議」、「学校・家庭・地域と共に考える教育懇談会」、「子どもミーティング」など様々な場面において、多くの方からご意見としていただいた。

今年度は各小中学校において、どのように読書に慣れ親しみ、習慣づけることができるか実践の年であり、学校においてはどのような取組を主体的に行うかをとりまとめたので報告する。取組内容は大きく3つに分け、①学校図書館を魅力化する取組、②学校図書館以外の学校内における取組、③市P連や町内会等の地域団体との連携した取組とした。本日は小学

校、中学校それぞれいくつかを抽出し、その取組内容を紹介する。

①学校図書館に関する取組について、小学校では、学校図書館でくつろいで読書ができる空間の創出、図書委員による図書クイズを実践。中学校では、北海道みんなの日にあわせて北海道に関連した図書のコーナーの設置や紹介などに取り組んでいくこととしている。

②学校図書館以外の学校内における取組について、小学校では、朝読書や読み聞かせ、ノーマディアデイにあわせた読書習慣の設定。中学校では、朝読書の設定、図書委員から図書日よりなどによる本の紹介など様々な取組を行っていくこととしている。

③地域団体と連携した取組について、小中学校ともに中央図書館と連携した学校ブックフェスティバル。小学校では、中央図書館による読書活動サポートの実施、芦野小学校では釧路公立大学の学生による読み聞かせや図書整備ボランティア。中学校では、ビブリオバトル（書評合戦）、中央図書館の読書サポートセットなどの各種事業の活用などが見られる。

小中学校あわせた取組数は、①学校図書館に関する取組は、154（小学校99、中学校55）、1校当たり約3.8の取組み。②学校図書館以外の学校内における取組は141（小学校100、中学校41）、1校当たり約3.4の取組み。③地域団体との連携した取組は、64（小学校52、中学校12）、1校当たり約1.56となっている。

これから学校が主体的に実施する様々な取組とあわせて、全市一斉に大人も子どもも一緒に読書に慣れ親しむきっかけとなるような仕掛けを施すことができないか、生涯学習部と検討しながら進めていきたいと思う。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（小出委員）

小学校に関して、地域団体との連携した取組が前より進んでおり、公立大生をはじめとした学校のボランティア以外との取組を行っていることが分かった。小学校が充実してきている一方で、中学校はあまり進んでいる印象がない。ボランティアの意欲だけではどうにもならない部分があるので、校長先生たちには学校図書館の役割を考えて取組みを進めてほしい。幣舞中学校のブックフェスティバルは素晴らしく、あのような取組ができると分かったのは大きかったと思う。学校図書館と中央図書館を連携していけたらなお良いので、進めていただきたい。学校図書館はどうしたらいいかわからない場面があると思うので、そのような連携も必要なのかなと思う。

（大山参事）

今年度から小中ジョイントの中に読書活動を小中連携で行っており、特に生徒会、児童会連携の話が出てきている。中学校は今年度からどのように取組んでいけばよいかという段階であったが、一次訪問で図書室を見ると意識が変わってきている。2学期も小中ジョイントの話し合いが行われるため、今年度末には来年度に向けた中学校の部分ももっと進んでいく。子どもミーティングの中でも各中学校の取組みを共有しながら、自分の学校でも生かしているかという話し合いをしているので、それらを含めて進めていきたい。

【公開案件】 報告事項

(3) 令和4年度釧路市子どもミーティング～Let'sTHINK&ACT～の開催について

(大山参事)

昨年度より内容と手法を新たにし再出発した、「釧路市子どもミーティング」。今年度は9月3日土曜日に生涯学習センターの多目的ホールを借りて行った。中身については、例年の標語コンクール表彰、学校紹介、その後ミーティングを行った。今年度も市内中学校生徒会の代表生徒、北陽高等学校生徒会、釧路市PTA連合会及び釧路市連合町内会の方々が、昨年同様「読書習慣の定着に向けて」をテーマにディスカッションを実施した。昨年度は第1回であり、様々な可能性を秘めたものとなったが、今年度は半年間、実際に各学校で行った活動についての中身を話し合った。

中身は大きく2つで、①昨年度から今年度にかけての各学校での読書活動推進の取組とその取組による効果や意識の変化について、②地域を巻き込んだ自分たちができる読書活動推進の方策について、参加者が熱く語り合った。幣舞のブックフェスの中身等も織り交ぜながら、いろんな学校の実践を学校代表として受け止めて、自校に持って帰ってもらう。今回の大きな違いは、話し合いの中身を中学生が同じ校区の小学生に伝える活動である。

また、今年度は釧路市子ども読書推進委員長の日野先生をゲストにお招きし、ご講評をいただいた。2回目の開催になるが、具体的な中身について話し合い、各学校に持ち帰っていただくというような内容になった。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

中学校の取組みが足りないという話が出ているが、市内小中学校からの今回の報告を受けて、各学校の読書活動が今までよりも充実していることが感じられる報告になっているか。

(早坂学校教育部長)

この取組みは学校図書館がどこにあるのかわからないという子供たちに対して、学校図書館の魅力を広め、子供たちが来たくくなるような空間づくりに努めようということから始まった。その取組みに関しては、市内全校、新規・既存の取組みが複数上がっており、各学校の気概があるという受け止めである。

(山口委員)

芦野小が公立大学と読み聞かせ等で関わっているという話で、教育大学も地域貢献としてフィールド研修を含めて各学校と関わっているが、高専が地理的に大楽毛小中と関わって高専のマンパワーが小中学生に何らかの影響を与えるような取組の見通しはあるか。

(早坂学校教育部長)

高専は産業分野、就職関係で高等教育との関わりを持っているが、小中学校まで交流が届

いていないというのが実態であるため、どこかのタイミングで高専関係者と小中学生の交流についての話し合いをしたいと思う。

(山口委員)

子どもミーティングの学校紹介で、イベント後に代表者が各学校に戻って自校の児童生徒に還元するのであれば、キャリア教育や進路指導という点で、公立大・教育大・高専・看護学校などの市内にある学校の紹介も組み込むほうが、子供たちにとって将来の見通しが立てやすく、プラスになると思う。

(大山参事)

学校紹介に関しては私がやめるよう指示したところである。それらの学校紹介についてはキャリア教育の場面で別途行うほうが良いと考えている。

#### 【公開案件】報告事項

##### (4) 釧路市奨学金に係るアンケート調査結果について

(早坂学校教育部長)

「釧路市奨学金に係るアンケート調査結果について」報告をする。

4月の定例教育委員会で奨学金について紹介した際、募集や決定時期について利用者の視点に立って考えてほしいという意見をいただいた。

現在、釧路市奨学金の貸与を受けている90名に対して「釧路市奨学生制度」に関するアンケートを行い、集計したので報告する。なお、46名(約50%)から回答を頂いた。

1つ目、釧路市奨学金制度について知ったきっかけは、知人・親族からが最も多く74%となっており、続いて、釧路市HP・フェイスブック、広報くしろ、学校となっている。

2つ目、奨学金を利用した理由については、無利子だからが74%と最も多く、次いで親元を離れ生活費がかかる、進学先の学費が高い等の経済的理由、他制度との併用可能などが主なものとなっている。

3つ目、併用している奨学金については、日本学生支援機構(30名)の他、医療系学生が対象となる奨学金となっている。

4つ目、募集期間については、ちょうどよいが約7割となっており、中には募集時期を早めて募集期間を長くできるのではないかというご意見もあった。今後については、周知方法の工夫も含めて制度の運用にあたっていきたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

概ね適切であるということか。

(岡部教育委員長)

奨学金を利用する際に、おそらく初めに給付型を検討し、その対象にならないと分かった

後に貸与型を探す人たちが、少し遅い時期に高い確率で借りられるというのが釧路市の貸与型の位置づけであると考えた場合、この時期であることが適切なのではないかと思う。

【公開案件】 報告事項

(5) エンジン02 in 釧路開催結果等について

(澤口生涯学習部次長)

エンジン02 in 釧路開催結果について報告する。

8月20日土曜日、21日日曜日の2日間、「エンジン02 in 釧路」を、釧路市生涯学習センターにて、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した中で開催した。

開催結果について、1日目に開催されたオープニングシンポジウムでは、参加者700人、2日目講座では、全部で8コマ実施し、延べ1,900人の参加があった。1日目シンポジウムのあと岸壁炉ばたにて開催された「夜楽(やがく)」では、100人の参加者と12名の講師(うち1名地元ゲスト講師)が炉を囲んで交流を楽しんだ。

総体では、8月20日・21日の2日間合計で2,700人の方が来場され、めったに直接お話を聞くことができない講師との「知の交流」を深めており、今後のエンジン03、04と継続した事業へ期待される場所である。この2日間でエンジン講師のみならず、内外からの来場者にも釧路の魅力を強く印象づけられたものと実感しており、ご参加、ご協力いただいた方々や、関係者皆様のご尽力の賜物と、感謝を申し上げる次第である。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

01は大々的に行い、02は01に比べると少し絞って行ったが、03、04になるにつれてだんだん絞られていくような見通しなのか。

(澤口生涯学習部次長)

01は大学の一般教養のような形で広くテーマを扱ったが、02はテーマを絞ったため01に比べると規模的に小さくなった。02と同様、03も04もテーマを絞って行う予定であるため、回を重ねるから小さくなっていくというわけではない。

(山口委員)

02のような規模を維持して、03、04も行うようなイメージということか。

(澤口生涯学習部次長)

そのようなイメージである。

(山口委員)

先日、滝川で行われた、都市教委連の連絡協議会の分科会の中でエンジン02の取組みについて話したところ、北海道内では釧路以外では行われていないためか、参加者の食いつきが非常に良く、取組みについて関心していた。

【公開案件】 報告事項

(6) 第50回釧路湿原マラソンの開催結果について

(島スポーツ課長)

第50回釧路湿原マラソンの開催結果について報告する。

7月31日(日)に第50回釧路湿原マラソン大会が、3年ぶりに開催された。今大会は、新型コロナウイルス感染症の影響による参加見合わせなどにより、参加申込者数は前回の令和元年度を688人、およそ20%下回る、2,778人となり、釧路市外からの参加者数は大きな変動がなかったものの、市内の学生や児童の参加が少ない結果となった。また、当日は令和元年度より776人少ない、2,411人が出走した。

天候については、晴れ間が広がり気温が上昇し、釧路市中心部では観測史上最高の33.5度を観測した。また、広里にある陸上競技場内に設置している温度計は、11時30分には35.4度の猛暑に見舞われ、体調不良などで30キロの完走率が64.4%となったほか、87件の救護対応があり、そのうち救急搬送が11件あった。救護対応の内訳については、熱中症や脱水症状が36件、筋肉痛や靴擦れなどといった軽度な症状が51件。なお、重傷者の報告はなかった。

今年も、トップランナーの川内優輝(かわうちゆうき)選手や藤澤舞(ふじさわまい)選手が釧路を駆け抜けるとともに、ひがし北海道クレインズの選手やスタッフ21名が参加し、大会を大いに盛り上げていただいた。また、沿道に詰めかけた観客の皆様が、コロナ禍の中、声援ではなく拍手で応援されるなど、釧路市民のおもてなしの気持ちが参加者に十分伝わったものと思っている。

本事業の実施にあたって、早朝より、およそ900名の市民ボランティアの方々や市内の高校生、関係機関・団体に大会運営のスタッフ等として格別のご協力をいただいたことに、改めて感謝を申し上げます。今後とも釧路湿原マラソンが市民はもとより、全国各地から多くの方々に参加いただける魅力あるスポーツイベントとして発展するよう、さらに運営面などの充実に努めていきたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

小中学生の参加が令和元年度よりも下がったという報告があったが、コロナ以降、部活動や同好会の大会などは抑える方向で進んでいる中で、マラソンだけ参加するとはなりにくかったのだと思う。今後、子供の参加者を増やすのであればコロナの状況を見ながらということにならざるを得ないと思う。

(島スポーツ課長)

おっしゃる通りだと思う。

(岡部教育長)

令和元年度の時点ですでに小学生の参加率は下がっていたが、今回はそれに比べてさらに下がっていたため、原因について分析をする必要があると思う。

#### 【公開案件】 報告事項

##### (7) 学校の現状について

(大山教育指導参事)

「信頼」に基づいて説明する。

2学期がスタートしたが、コロナの影響は避けられなかった。当初、先生方が休んで学校運営に支障が出ることを危惧していたが、大きな混乱はなかった。コロナ陽性で休んでいる子供たちにオンライン授業を行うことは現在も続けており、感染者数が下火になってきたため、落ち着いてくると思う。

小学校の修学旅行が始まったが、中学校のときの経験を生かして情報共有をしながら進めており、いまのところ大きな混乱は起きていない。

第7波の最中に中体連全国剣道大会が開催された。当番校の鳥取中学校の先生方、お手伝いの先生方、関係者の皆さんに感謝を申し上げる。

また、管理職の年度途中人事についてもお礼を伝えている。

コロナの対応について通知が届いたが、道教委から道立学校へ向けた内容になっていたため、釧路市教育委員会として釧路市の考え方を基に説明した。抗原検査キットの使い方については従来とおり教育委員会と協議するようお願いしていること、濃厚接触者の待機期間は道立学校同様にしていること、児童生徒の感染が家族感染など明らかに校内感染でない場合は学級閉鎖の対象外になることをお願いした。

次に、小・中ジョイントプロジェクトの関係で、外国語巡回指導訪問の第2クールから小中連携が本格的に始まる。そのお願いと他の連携事業についても中学校区の計画に基づいて進めるようお願いをした。

今回の学校のあり方に関する地域懇談会でもジョイントについての質問があるなど、保護者や地域住民の方の関心の高い教育活動になっている。具体的な連携については、各学校のCS協議会やPTA役員会での説明、学校だよりでの説明が必要になることを伝えている。

次に、今年度から道教委の事業ですべての小学校6年生を対象に「英検ESG」を実施する。簡単に言うと英検のテストで、テストが30分、アンケートが10分程度となっている。中学校で実施している「英検IBA」と連動しているため、小学校から中学校への引き継ぎをお願いしている。

最後にヤングケアラーの研修の件、自殺者が増加する時期であることについて、再度お願いをした。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

小中ジョイントプロジェクトの推進について。縦の連携を中心に進めている事業であるが、鳥取中学校校長と話した際に、鳥取中学校区の3校の小学校の横の連携が、今まで以上に密に連絡を取って教育活動を進めることができていると言っており、縦横の連携が今まで以上に図られるようになってきている実感をした。

(大山教育指導参事)

小中連携をするには小小連携は必要になってくる。

(種村委員)

英検のことについて。これの主催はどこになっているのか。

(大山教育指導参事)

主催は道教委で、全道の小学校6年生が対象である。

(種村委員)

問題の作成はどこが行っているのか。

(大山教育指導参事)

英検と連携を組んでいるため、無料で受験ができる。中学校の英検のI B Aと同様に、3、4年間は英検の問題を使って無料で行うことになっている。

(種村委員)

通常の英検同様、3級、2級のようにとることができるのか。

(大山教育指導参事)

おおむね3級、2級レベルのといった感じになる。

(山口委員)

過去の道教委の事業として「心の教室相談員」というものがあり、最初の数年間は道教委でマンパワーの人件費を持つとあって立ち上げたものの、数年後にはしごを外された経験がある。その後、道教委からお金がもらえなくなったからやめるというわけにもならず、人件費を市のお金で確保しなくてはいけなくなった事例があり、苦い思い出がある。

(大山教育指導参事)

教育局には何年間かは継続してもらえるよう要望をあげていく。

(山口委員)

子供たちにとっては良い機会であるため受けさせてあげたいが、はしごを外された後にどのように継続できるかというのが重要になると思う。

(岡部教育長)

1学期中に学校を回る段階で、ほとんどのクラスでコロナ陽性や濃厚接触者による欠席者にオンラインで対応できていた。ここ1年半で、家庭でのWi-Fi環境が劇的に上がり、ほぼ100%になっている感じがすると学校の先生の話があったが、何か数字をつかんでいるか。

(大山教育指導参事)

2回目の調査で、約97%までいっている確認はできている。

(岡部教育長)

最初の調査では数字としては高くても弱いWi-Fi環境であったが、今ではほぼ全員が自宅からタブレット接続できる環境が整っている。今後、コロナやインフルエンザによって学級閉鎖をする必要がなくなるかもしれない。先生方もオンライン授業が上手になったと思う。

(山口委員)

全国学力・学習状況調査の全国との比較で、釧路市はタブレット関係で先生方の指導で使おうという意欲や、授業で子供たちがタブレットを利用できている結果が出ている。教育委員会の指導や先生方の努力によるもので、これについては成功した事例といえると思う。

(大山教育指導参事)

小学校長会、中学校長会の全道会議の中でも、釧路は飛びぬけて進んでいるという話を指導主事から聞いている。